☆青空の子どもたち☆　　横浜市立中丸小学校

学校だより

7月号　令和5年6月30日

紫陽花

校長　吉田　りえ

梅雨の時期になると美しく咲くのが紫陽花の花です。雨に濡れてきれいな花を咲かせる紫陽花が目を楽しませてくれます。日本の植物学の父と呼ばれる牧野富太郎氏の著書「牧野植物図鑑」の中に紫陽花の名前の由来が載っています。「『あじさゐ』は『あづさゐ』が変化したものである。『あづ』の意味は“集（あつまる）”で『さゐ』は“さあゐ”が変化したもので、その意味は『真藍』である。『集真藍』とは藍色の花がたくさん集まって最多花を意味するとのこと」と記しています。紫陽花という花は花弁に見えるところが蕚（がく）で本当の花は中心部に咲いているそうです。

雨の日が多くなるこの時期、紫陽花の花を見ると心が明るくなります。さて、紫陽花について書かれた次のような詩があります。

あじさいの花

坂村　真民

まるくまるく
形のよいものになろうとする
やさしい心の
あじさいの花
きのうよりもきょうと
新しい色になろうとする
雨の日の
あじさいの花

紫陽花は花や蕚が集まって詩にあるように「丸く形の良いものになろうとする」ことから「一家団欒」や「家族の強い結びつき」を花言葉としているところもあるようです。また、日を追って色を変えるところから「七変化」と呼ぶこともあります。坂村さんは紫陽花に優しさとともに、昨日より今日と変化し向上しようとする心も感じ取ったのではないでしょうか。紫陽花の花が異なる一つひとつの花が調和して美しい花を成していることから私たちが協力し合い、調和を保ちながら学び、成長していく大切さを思い起こさせてくれます。また、梅雨の季節に咲く花であり、水や自然の恵みに感謝する気持ちを表していることから、日々の生活に感謝し周囲の人々への感謝の気持ちを忘れないようにという思いが込められているようです。こんな紫陽花のやさしさや向上心は本校の児童にも育ませたいといつも願っています。

家庭、地域で過ごすことが増える夏休みに、いろいろな経験から”心の成長”をたくさん感じることができるように、皆様の温かいご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。